

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-24

学校名・団体名	町田市立鶴川第二小学校
HPアドレス	<a href="http://www.machida-tky.ed.jp/e-tsurukawa2/">http://www.machida-tky.ed.jp/e-tsurukawa2/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	論理的思考力・メタ認知力・適応的学習力の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>平成27年度より文部科学省研究開発学校となり、これまでの4年間にわたって研究した教科指導における「思考のすべ」を活用した論理的思考力の育成に加え、これからの子供に育成すべき21世紀型能力の中核となる思考力（主にメタ認知力・適応的学習力）及び人間形成力の育成を図る目的で、新教科「21世紀スキル科」の開発に取り組んだ。得られた知見を次期教育課程の改善に資することを目的としている。</p>	

## 1. 研究の実践

### (1) 新教科「21世紀スキル科」の構成の視点、目標及び内容について実践を通じた検討

#### ① 子供に育むべき資質・能力の明確化

教科及び新教科「21世紀スキル科」において子供に育むべき資質・能力の枠組みについて、諸外国の動向や「21世紀型能力」を踏まえつつ、運営指導委員会での委員の指導・助言を受け、それらを明らかにし、教員が共有化した。特に、教科で育成する論理的思考力及びメタ認知力、「21世紀スキル科」で育成するメタ認知力及び適応的学習力、また、人間形成力について検討した。

#### ② 新教科「21世紀スキル科」の目標及び内容

「21世紀スキル科」で目標及び育成すべき資質・能力を決め、スキル科Aとスキル科Bの2つの内容で構成し、全学年で年間指導計画を作成して実践した。

##### ア) 「21世紀スキル科」の目標及び内容

###### <目標>

「対象から見いだした問題を身に付けた知識・技能、学び方及び汎用的能力を使って、自律的で主体的・協働的に解決する活動を通して、見方・考え方を多面的・総合的につくりながら、思考力及び人間形成力を育成する。」

###### <内容>

「21世紀スキル科」は、スキル科Aとスキル科Bの2つの内容で構成する。

- ・スキル科Aは、これまで学んだり経験したりした対象（自分自身、自分と他人、自分と社会、自分と自然）について、子供が自律的で主体的・協働的に問題解決活動及び目標実現活動を行う。その学習指導過程において教科等及びスキル科Bで身に付けた知識・技能、学び方（ICT活用含む）、思考のすべを活用して、思考力（主に適応的学習力）と人間形成力（主体性・協調性）を育成する。
- ・スキル科Bは、子供自らが「なりたい自分を見つける時間」と位置付け、なりたい自分の実現に向かって育成すべき思考力及び人間形成力の目標を立て、実践を通して自ら評価・改善する。また、メタ認知力を育成するためのモニタリングとプランニングの手法を身に付ける。

###### <時間設定>

第1・2学年では、「国語科」より20時間、「生活」より15時間（第1学年14時間）を削減し、第3・4学年では、「国語科」より15時間、「総合的な学習の時間」より35時間を削減し、第5・6学年では、「国語科」より10時間、「総合的な学習の時間」より40時間を削減し、新教科「21世紀スキル科」を設置した。以下のように授業時間、実施時期及び内容を計画し、実施した。

	特支学級	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
スキル科A	25時間 (9~12月)	24時間 (10~3月)	25時間 (1~3月)	40時間 (12~3月)	40時間 (12~3月)	40時間 (10~2月)	40時間 (9~2月)
	プロジェクト型	自分づくり型	自分づくり型	プロジェクト型	自分づくり型	プロジェクト型	プロジェクト型
スキル科B	10時間	10時間	10時間	10時間	10時間	10時間	10時間

##### イ) 「21世紀スキル科」で働かせる見方・考え方、育成すべき資質・能力（新教育課程との関連）

働かせる見方・考え方と 資質・能力育成の視点	育成すべき資質・能力		
	知識や技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
教科で培った見方・考え方を働かせ、自分自身、自分と他人、自分と社会、自分と自然を対象に、自律的で主体的・協働的に解決する活動を通して、次の資質・能力を育成する。	自己をメタ認知する技能を身に付けるとともに、教科で身に付けた知識・技能を効果的に活用し、対象について多面的・総合的な見方・考え方をもつ。	自己や他者との学びを振り返って、自己の考えや行為をモニタリングして捉え、次へのプランニングをするメタ認知力を養うとともに、教科で学んだ学び方や汎用的能力を適応して自分の問題解決活動や目標実現活動を進めていく適応的学習力を養う。	自分のよさを生かし、目的意識をもって最後まで粘り強く取り組む主体性を養うとともに、他者のよさを認め、相手意識をもって協働できる協調性を養う。

#### ③ 評価方法及び評価指標の決定

子供には、評価方法として、学年当初の「21世紀スキル科」実施前に、思考力（3項目）、主体性（7項目）及び協調性（6項目）について5段階選択肢のアンケート調査を、実施後に再び同様のアンケート調査を実施して、学習前（4月）・中（11月）・後（2月）の子供の意識を調べた。また、思考力については文部科学省及び東京都教育委員会の学力調査結果を分析して実態をとらえた。

また、保護者に対しては、6月及び9月に研究内容の説明を行って、教科及び「21世紀スキル科」の授業を参観後に、記述式のアンケート調査を実施した。

さらに、教員に対しては、「21世紀スキル科」の実施における子供の思考力、主体性及び協調性の育ちについて、記述式のアンケート調査を実施した。

そして、平成29年2月25日の中間報告会において、参加者より記述式のアンケート調査を実施し、「21世紀スキル科」に対する評価を現在整理中である。

(2) 研究経過 (対象学年は全学年であり、授業研究に関わる内容は全クラスで実施した)

実施時期	研究内容, 研究方法	研究視点
4月	・理論研究 (論理的思考力を育成する授業づくり, 21世紀スキル科の研究開発)	・全教員による研究理解
5月	・実践研究 (授業研究: 4年理科 それ以降, 1学期に各教員1回の公開授業研究の実施)	・論理的思考力の育成の授業づくり
6月	・理論研究 (全国の研究開発学校の取組状況と本校の役割: 国立教育政策研究所 福本徹総括研究官)	・新教育課程、アクティブラの理解
7月	・実践研究 (授業研究: 4年音楽・大塚氏) ・実践研究 (評価方法開発)	・適正な評価の実施
8月	・運営指導委員会 (第1回: 研究の内容検討) ・実践研究 (ICTスキル研修(夏季休業中))	・研究の内容指導 ・ICTの活用研修
9月	・実践研究 (授業研究: 2年スキル科B・寺本准教授) ・公開授業 (保護者対象の全教員の公開授業)	・スキル科授業の検討 ・保護者への啓発
10月	・実践研究 (研究授業: 5年スキル科A・寺本准教授)	・スキル科授業の検討
11月	・実践研究 (研究授業: 6年スキル科B・木下准教授) ・研究指導 (市教委訪問による全教員授業視察)	・スキル科授業の検討 ・研究指導
12月	・実践研究 (研究授業: 1年スキル科A・水戸部調査官他) ・実践研究 (評価方法開発) ・運営指導委員会 (第2回: 研究の内容検討)	・スキル科授業の検討 ・適正な評価の実施 ・研究の内容指導
1月	・実践研究 (授業研究: 3年スキル科A・中田教授) ・教育課程編成 (新教科を位置付けた教育課程編成) ・実践研究 (授業研究: 2年図画工作科2回・石井氏)	・スキル科授業の検討 ・来年度教育課程の編成
2月	・中間報告会 (全学年授業公開と研究協議) ・研究報告 (2年次版研究報告書の作成及び発行) ・運営指導委員会 (第3回: 二年次のまとめと課題) ・実践研究 (授業研究: 2年図画工作科2回・石井氏)	・研究成果の普及啓発 ・報告書の作成及び発行 ・研究の方向性指導
3月	・理論研究 (研究のまとめと次年度の研究計画) ・実践研究 (授業研究: 1年国語科2回・太田氏)	

2. 成果と課題

(1) 成果 (子供の思考力及び人間形成力の育ち)

第6学年の子供の意識調査の結果、学習前と学習中を比べて、思考力、主体性、協調性の全般にわたって低くなっている。これは、メタ認知力が学習前に比べ高まり、自己評価をよりの確に行ったからと考える。学習後には、思考力、主体性、協調性の全般にわたって向上しているが、その理由として問題解決や目標の実現ができたという充足感や自己の能力向上が実感できたからではないかと考える。このことは、子供の自己評価した理由に、「将来に大切なことを学び、見通しや計画を立てて、最後には授業のことを振り返りをして明日や未来に結び付ける授業だとスキル科が終わる時に気付いた。」(思考力)、「日々明日の見通しや、今日自分の変化を書いていくことで、『家で〇〇する』など発展していき主体的に行動できるようになっている。」(主体性)、「自分たちで考えて学習を進めたりすることは、すぐにはできないが、グループの人達と話し合っよりよい考えを出して学習を進めるのがいいと思う。今、自分が何をすべきかを考えることができた。」(協調性)などの表現からもうかがえる。

また、タブレット端末やデジタルペンを活用して思考力を育成する取組は、学習支援ソフトを活用して情報を共有したり比較したりすることができた。また、デジタルペンを活用した思考過程の振り返りやタブレット端末を活用した振り返りの工夫により、メタ認知力の育成に効果があったと考える。

(2) 今後の課題

① 「21世紀スキル科」の内容改善

スキル科Aの40時間を長期間にわたって実践する場合、長すぎて子供が見通しをもちづらかったり、途中で興味・関心が低下したりしてしまった。現在、スキル科Aを「自分づくり」型と「協働プロジェクト」型のいずれかに位置付けているが、来年度はスキル科A「自分づくり」型にスキル科Bを取り入れて20時間程度、スキル科A「協働プロジェクト」型の30時間程度の単元開発を検討していく。

② 研究体制の改善

各内容の開発を進めるために、スキル科A部会、スキル科B部会、教科部会の3部会でそれぞれの開発を進めてきたが、来年度は、上述のようにスキル科Aとスキル科Bを併せた「自分づくり」型の研究開発が必要となるなど、研究部会を変え、新たな研究体制を構築して研究開発を進めていく必要がある。